

H30大豆栽培農事メモ 第3号 (エンレイ版)

平成30年7月19日
白山石川営農推進協議会
石川県農業共済組合
松任市農業協同組合

1 生育状況

里のほほえみ、エンレイの草丈は昨年並で
開花期は7月25日頃の見込みです。
梅雨明け後、降雨が少ないため、生育はやや遅れ気味です。
畝間灌水を実施し、大豆に水分補給を心がけましょう



里のほほえみ エンレイ

2 早急に培土と追肥を実施しましょう！

生育量を確保するため、2回目の培土と追肥を圃場条件に合わせて速やかに実施する。
ただし、**すでに開花期を迎えた圃場は2回目の培土は実施しない**（開花期以降の培土は、
根の切断による生育抑制や落花に繋がる）。
なお、**培土ができなかった場合でも、開花期までに必ず追肥を施用**する。

播種区分	培土・追肥時期	追肥（肥料名、施用量）
6月播種	7月 末日まで	硫安 10kg/10a または NK17号 11~13kg/10a

3 高温乾燥時や強風時は、畦間灌水を実施しましょう！

➡️ 要注意！7、8月ともに気温の高い日が多く、8月は晴れの日が多い予報です！

- 開花期（7月中下旬）～莢伸長期（8月上・中旬）にかけては干害の影響を受けやすく、圃場の乾燥が続くと着莢数が減り減収します。
- 開花期以降、**乾燥が続く場合、葉が裏返る前に、早めに畦間灌水**（地温の低い夕方から早朝にかけて行うのが望ましい）を実施しましょう。
- 畦間灌水を円滑に実施するため、**畦間のつなぎや排水溝等の点検**を行い、入排水がスムーズにできるようにしましょう。
- 長期の停滞水は、根の機能低下、地上部の生育不良等の生育障害を生じさせるため、**大雨や畦間灌水後は速やかに排水**しましょう。



4 除草対策・除草剤の散布により雑草の発生を抑えましょう！

除草剤名	適用雑草名	使用時期 [収穫前日数]	10a 当たり使用量 (希釈水量)	散布方法	使用回数
バスタ液剤	畑地一年生雑草 【非選択性】	畦間処理：雑草生育期 [収穫28日前まで]	300~500 mL (100~150L)	雑草茎葉散布	3回以内
プリグロックスL	畑地一年生雑草 【非選択性】	畦間処理：雑草生育期 (草丈30cm以下) [収穫3日前まで]	600~1000 mL (100~150L)		4回以内
ラウンドアップ マックスロード	畑地一年生雑草 【非選択性】	畦間処理：雑草生育期 [収穫前日まで]	200~500 mL (通常散布50~100L) (少量散布25~50L)		2回以内

※いずれも大豆にかかると枯れるため、注意して散布して下さい。

5 適期防除で収量・品質の向上に努めましょう！

紫斑病やカメムシ類などの防除を徹底し、
きれいな大豆を生産しましょう。



(1) 粉剤防除

	生育ステージ	使用時期の目安	使用薬剤名 [収穫前日数]	10a 当たり 使用量	対象病害虫名	使用回数
1回目	幼莢期 (開花後15日頃)	8月2~6日	スミチオンベルコート 粉剤DL [収穫21日前まで]	3kg	紫斑病、カメムシ類、 マメシクイガ*	4回以内
2回目	子実肥大初期	8月12 ~16日	スミチオンベルコート 粉剤DL [収穫21日前まで]	3kg	紫斑病、カメムシ類、 マメシクイガ*	4回以内
3回目	子実肥大後期	9月1~5日	トレボン粉剤DL [収穫14日前まで]	4kg	カメムシ類、ソイイモジ マダラメイガ*、マメシクイ ガ*、ハスモンヨトウ、 アブラムシ類、他	2回以内
随時	開花期～幼莢期 (7月下旬～8月上旬)	ウコンノメイガ 初発時	サイアノックス粉剤 [収穫7日前まで]	4kg	ウコンノメイガ*	2回以内
	子実肥大後期 以降	カメムシ 多発時	MR. ジョーカー粉剤DL [収穫7日前まで]	4kg	カメムシ類	2回以内

(2) 液剤防除

	生育ステージ	使用時期の 目安	使用薬剤名 [収穫前日数]	希釈倍数 (10a 当たり 使用量)	対象病害虫名	使用回数
1回目	幼莢期	8月2 ~6日	混用 Z ボルドー水和剤 カスケード乳剤 [収穫7日前まで]	500倍 (100~300L)	紫斑病、葉焼病 斑点細菌病	-
				4,000倍 (100~300L)	カメムシ類、ハスモンヨトウ ウコンノメイガ*	2回以内
2回目	子実肥大初期	8月12日 ~16日	アミスタートレボンSE [収穫14日前まで]	1,000倍 (100~400L)	紫斑病、カメムシ類	2回以内
3回目	子実肥大後期	9月1日 ~5日	スタークル液剤10 [収穫7日前まで]	1,000倍 (100~300L)	カメムシ類	2回以内
随時	開花期～幼莢期 (7月下旬～8月上旬)	ウコンノメイガ 初発時	プレバソンフロアブル5 [収穫7日前まで]	4,000倍 (100~300L)	ウコンノメイガ*	2回以内
	子実肥大後期 以降	カメムシ 多発時	トレボン乳剤 [収穫14日前まで]	1,000倍 (100~300L)	カメムシ類、ハスモンヨトウ マメシクイガ* アブラムシ類、他	2回以内

農薬・除草剤の使用では、使用基準を守り適正に使用し、周囲への飛散
に注意するとともに、作業は熱中症予防のため、特に暑い日は無理をしない！

近年、子実肥大期に葉を損傷し、豆の充実を低下させるウコンノメイガや葉焼病の発生が
増えています。初発時の発生状況を確認し、適切に防除しましょう。